

松前町商工会経済レポート（平成30年度第4四半期）

松前町商工会

本レポートは、愛媛県や中小企業庁が公表する各種経済動向調査の概要を四半期毎に取りまとめ、報告するものです。

1. 最近の県内経済情勢

愛媛県では、各種経済指標や県内産業の動向をとりまとめ、毎月、月末をめどにホームページ上で「最近の県内経済情勢」として公表しています。その中から、愛媛県の経済概況と、町内主要産業別の状況を抜粋して掲載します。

(1) 愛媛県の経済概況

一部に弱い動きがみられるものの、緩やかな持ち直しが続いている。 前月との比較 

○個人消費 前月との比較 

一部で振れを伴いつつも、全体としては持ち直しの動きとなっている。

【百貨店・スーパー販売額】 前年同月比2.8%減少、3か月連続で前年を下回る。
【専門量販店販売額】 ドラッグストアは23か月連続で前年を上回る。
家電大型専門店は2か月ぶりに、ホームセンターは3か月連続で前年を下回る。
【コンビニエンスストア販売額】 3か月連続で前年を上回る。
【新車販売台数】 普通乗用車は4か月連続で前年を上回り、軽乗用車は10か月ぶりに前年を下回る。

○住宅・公共工事

住宅着工は持ち直しの兆しがみられる。 前月との比較 

公共工事はこのところ持ち直しの動きとなっている。 前月との比較 

【新設住宅着工戸数】 前年同月比14.6%増加、2か月ぶりに前年を上回る。
【公共工事】 請負金額の年度累計における前年同月比は10.5%増加。

○生産活動 前月との比較 

一部で持ち直しの動きもみられるが、全体としては弱い動きとなっている。

【鉱工業生産指数】 前年同月比(原指数)で横ばいとなっている。
プラスチック製品、その他、繊維等の業種で前年を上回る。
電気機械、石油・石炭製品、金属製品等の業種で前年を下回る。

○雇用・所得

雇用情勢は着実に改善が続いている。 前月との比較 

雇用者所得は弱い動きとなっている。 前月との比較 

【有効求人倍率】 1.69倍と、65か月連続で1倍を超えた。
【正社員有効求人倍率】 1.23倍と、107か月連続で前年を上回る。
【現金給与総額】 名目では前年比4.1%減、9か月連続で前年を下回る。
実質でも4.3%減、9か月連続で前年を下回る。

(資料) 愛媛県産業政策課「最近の県内経済情勢(平成31年2月分)」より転載
<http://www.pref.ehime.jp/h30100/jousei/documents/jyousei3103.pdf> (参照 2019-4-4)

(2) 地場産業の状況（平成30年7月～9月の状況）

業種	産業事情
自動車関連	自動車関連は、高操業を維持している。
鉄工	中小鉄工は、新居浜地域・西条地域で、全体として需要は堅調に推移しており、一定の操業度を維持している。 銑鉄鋳物は、需要に上昇の兆しが見られ、一定の操業度を維持している。 鉄構は、鉄骨需要が堅調に推移しており、高操業を維持している。
陶磁器	陶磁器は、春の需要期に向けて高操業となっており、生産は前年比横ばいとなっている。
珍味品	高操業を維持しており、生産は前年をやや上回っている。
陸運関係	地域にばらつきはあるものの、利用者の減少や燃料費の高騰などから業況は下向きとなっている。また、一部の事業者では人手不足により仕事に制限が出ている。

（資料）愛媛県産業政策課「最近の県内経済情勢（平成31年2月分）」より抜粋して掲載
<http://www.pref.ehime.jp/h30100/jousei/documents/jyousei3103.pdf>（参照 2019-4-4）

2. 中小企業景況調査報告書

「中小企業景況調査」は、中小企業施策立案の基礎資料を収集するために、(独)中小企業基盤整備機構が四半期毎に実施、中小企業庁と同機構が共同で結果を取りまとめ、公表しています。

(1) 業種別業況判断D I と天気図

「中小企業景況調査」では、業況判断D I 調査が実施されています。

D I とは、前年同期と比べた今期の状況について、「増加（上昇、好転）」の割合から「減少（低下、悪化）」の割合を差し引いた値で、景況感の相対的な広がりを示すものです。

以下の記号とD I 値の関係に基づいて、直近の調査報告データを視覚化してご紹介します。

<記号とD I 値の関係>

 快晴 ~30.1	 晴 30.0 ~10.1	 薄曇 10.0 ~▲10.0	 曇 ▲10.1 ~▲30.0	 雨 ▲30.1~
---	--	--	---	---

<業種別業況判断D I と天気図（2019年1-3月期）>

製造業	食料品  ▲12.5	繊維工業  ▲13.3	木材・木製品  ▲13.9	家具・装備品  ▲19.5	パルプ・紙・紙加工品  1.6
	印刷  ▲24.4	化学  ▲5.0	窯業・土石製品  ▲21.8	鉄鋼・非鉄金属  ▲10.7	金属製品  ▲10.2
	機械器具  ▲10.7	電気・情報通信機械器具・電子部品  ▲24.1	輸送用機械器具  ▲11.3	その他の製造業  ▲17.6	
非製造業	建設業  ▲3.9	卸売業  ▲14.9	小売業  ▲24.0	宿泊業  ▲13.3	飲食業  ▲16.6
	対個人サービス業（生活関連）※1  ▲14.7	対個人サービス業（自動車整備その他）※2  ▲13.9	対事業所サービス業（運送・倉庫）※3  ▲7.4	対事業所サービス業（専門技術その他）※4  ▲6.8	情報通信・広告業  2.2

※1「対個人サービス業（生活関連）」は、不動産業、洗濯・理容・美容・浴場業、その他の生活関連サービス業等の8業種。

※2「対個人サービス業（自動車整備その他）」は、自動車整備業、機械等修理業。

※3「対事業所サービス業（運送・倉庫）」は、道路旅客運送業、道路貨物運送業、倉庫業等の5業種。

※4「対事業所サービス業（専門技術その他）」は、専門サービス業、技術サービス業、廃棄物処理業等の5業種。

(資料) 中小企業庁「第155回中小企業景況調査（2019年1-3月期）」より松前町商工会作成

(2) 「調査対象企業のコメント」から見る経営上の問題点

- ・ 年度末になると例年、受注が増えるが、今年は選挙が控えている為、受注が多い。また、改元のタイミングでも受注がさらに増えるものと考えられる。[印刷 群馬]
- ・ 受注は好調であるが、人材不足は相変わらずである。業種的に良い人材が集まらず無理に雇用しても会社の利益につながらないこともあり、悩ましい。[木材・木製品 岐阜]
- ・ 消費税増税に伴いキャッシュレス化が大きく影響すると思い各種クレジットカード、モバイル決済アプリ、交通系電子マネーにも対応できるように設置済み。[飲食業 和歌山]
- ・ 近年にない暖冬で冬物衣料の売上げ、在庫処分に影響が出ている。春物の展開で挽回して行きたい。[小売業 島根]
- ・ 前年に比べると受注量の落ちつきが見て取れる。原材料価格は全体的に上昇傾向にあり、受注単価にも影響は出ている。今後についての受注動向や原材料の仕入状況を踏まえると収益の下振れの懸念があり、不透明感がある。[鉄鋼・非鉄金属 愛媛]

(資料) 中小企業庁「第 155 回中小企業景況調査 (2019 年 1-3 月期)」より抜粋

中小企業景況調査報告書【えひめ版】

愛媛県商工会連合会

全国商工会連合会では、四半期毎に景況調査を実施しており、本報告書は県内商工会地域の景気動向を【えひめ版】として作成したものです。

調査対象期間：平成30年度第4四半期（平成31年1月～3月期）

調査対象企業：150企業 回答企業：150企業

（製造業：31社 建設業：20社 小売業：40社 サービス業：59社）

DI方式

DIとは、各調査項目について〔増加・上昇・好転〕の割合から〔減少・低下・悪化〕の割合を差し引いた値で〔景気動向指数〕を表しています。

*記号とDI値の関係

 快晴 ~30.1	 晴 30.0 ~10.1	 薄曇 10.0 ~▲10.0	 曇 ▲10.1 ~▲30.0	 雨 ▲30.1~
---	--	--	--	---

1. 業況判断DIと天気図（2年間の推移）

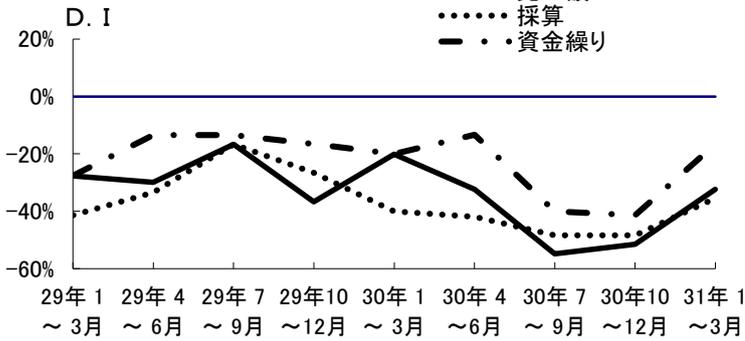
期別	業種別	①製造業		②建設業		③小売業		④サービス業		全体	
	平成29年 1~3月期		▲ 31.1		▲ 10.0		▲ 61.1		▲ 26.7		▲ 32.2
平成29年 4~6月期		▲ 26.7		▲ 36.8		▲ 53.7		▲ 31.1		▲ 37.1	
平成29年 7~9月期		▲ 20.0		▲ 10.0		▲ 36.6		▲ 35.6		▲ 25.6	
平成29年 10~12月期		▲ 20.0		▲ 5.0		▲ 48.9		▲ 32.7		▲ 26.7	
平成30年 1~3月期		▲ 43.3		5.0		▲ 58.5		▲ 45.8		▲ 35.7	
平成30年 4~6月期		▲ 43.3		▲ 15.0		▲ 41.0		▲ 8.4		▲ 26.9	
平成30年 7~9月期		▲ 46.7		5.0		▲ 45.0		▲ 16.9		▲ 25.9	
平成30年 10~12月期		▲ 30.0		15.0		▲ 48.6		▲ 16.9		▲ 20.1	
平成31年 1~3月期		▲ 36.7		20.0		▲ 47.5		▲ 28.8		▲ 23.3	
来期見通し 4~6月期		▲ 33.3		15.0		▲ 45.0		▲ 20.3		▲ 20.9	

（注1）業況判断DIポイント値は、前年同期と比較して業況が「好転」と答えた企業の割合から「悪化」と答えた企業の割合を引いたもの

（注2）「全体」のポイント値は全業種の単純平均値

2.業種別景気動向

①製造業



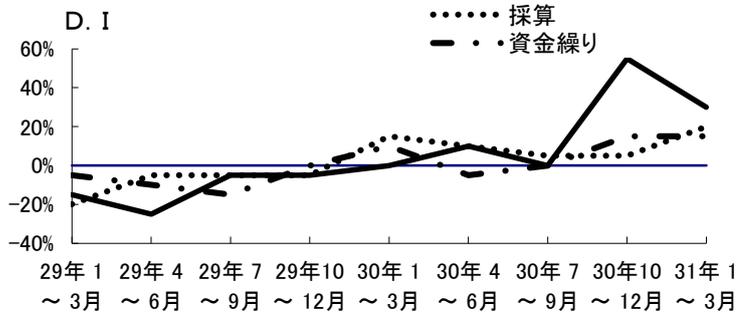
<前期比>

売上額 : 好転 (▲51.5→▲32.3 ポイント)
 採算 : 好転 (▲48.4→▲35.5 ポイント)
 資金繰り : 好転 (▲41.4→▲16.7 ポイント)

<経営上の問題点> (順位と比率)

1位 : 生産設備の不足・老朽化、原材料価格の上昇 (19.4%)
 2位 : 従業員の確保難、需要の停滞 (16.1%)

②建設業



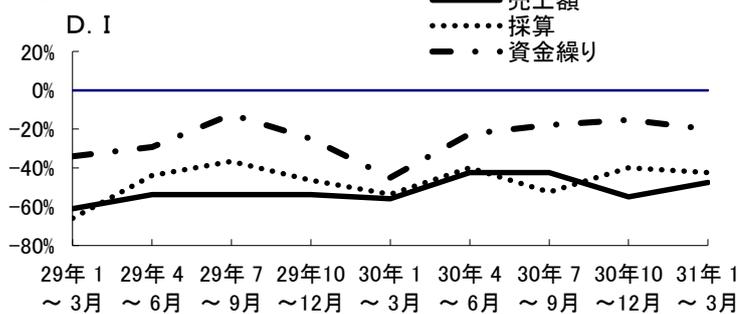
<前期比>

完成工事額 : 悪化 (55.0→30.0 ポイント)
 採算 : 好転 (5.0→20.0 ポイント)
 資金繰り : 横ばい (15.0→15.0 ポイント)

<経営上の問題点> (順位と比率)

1位 : 材料価格の上昇 (28.6%)
 2位 : 従業員の確保難 (21.4%)

③小売業



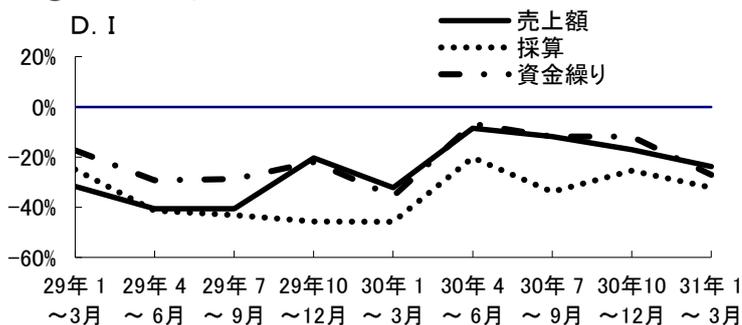
<前期比>

売上額 : やや好転 (▲55.0→▲47.5 ポイント)
 採算 : やや悪化 (▲40.0→▲42.5 ポイント)
 資金繰り : やや悪化 (▲15.3→▲20.0 ポイント)

<経営上の問題点> (順位と比率)

1位 : 購買力の他地域への流出 (24.3%)
 2位 : 消費者ニーズの変化 (21.6%)

④サービス業



<前期比>

売上額 : やや悪化 (▲17.0→▲23.8 ポイント)
 採算 : やや悪化 (▲25.4→▲32.2 ポイント)
 資金繰り : 悪化 (▲11.9→▲27.1 ポイント)

<経営上の問題点> (順位と比率)

1位 : 需要の停滞 (19.2%)
 2位 : 利用者ニーズの変化 (17.3%)